

平成２７年度対ベリーズ草の根・人間の安全保障無償資金協力 「ベリーズ公立農業高校校舎拡張計画」引渡式

２０１７年６月２１日、山中参事官は、オレンジ・ウォーク県のベリーズ公立農業高校にて行われた、平成２７年度対ベリーズ草の根・人間の安全保障無償資金協力「ベリーズ公立農業高校校舎拡張計画」の引渡式に出席し、図書室と２教室を有する校舎を同校に寄贈しました。

ベリーズ公立農業高校では、近年、教育省から３台のスクールバスが提供され、生徒たちの通学が便利となった反面、年々入学希望者が増加し、教室数不足が顕著となり、入学希望者のうち７０名の受け入れができない事態も発生していました。

このプロジェクトは、校庭の空き地に図書室と２教室を有する新校舎を増築することにより、新入生の受け入れ人数を増加させ、農業を主産業とする同地域で、農業を専門的に学んだ人材を育成し、地域コミュニティの開発に寄与することを目指します。また、増築校舎はハリケーンシェルターとしての使用も想定しており、地元住民の人間の安全保障の観点からも意義が深いものとなっています。

当日の引渡式には、エロディオ・アラゴン国務大臣、リスベス・デルガド・ベリーズ公立農業高校校長を含む同校関係者など約３０名が参列しました。

ファバー副首相兼教育・青年・スポーツ・文化大臣の代理として出席したアラゴン国務大臣は、日本政府がベリーズにおける教育の重要性について理解し、支援していただいたことに感謝する、多くの世代が日本の支援を享受することになり、卒業生が地域で更に若い世代を育成していくことになる、ベリーズ国民、特に若い世代を代表して日本政府に対し感謝すると述べました。デルガド校長は、近年の人口増加とそれに伴う農作物の需要が増大し、入学希望者も増加してきたため、必要な教室が不足してきた中、日本の支援を得て校舎拡張を実現することができた、日本大使館の支援に感謝すると述べました。

山中参事官は、本日の引渡式は学校関係者の皆様が計画の当初から完成まで骨身を惜しまず取り組んだ結果であり、賞賛されるべきものである、我が国は、引き続きこの草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じて、ベリーズによる人的開発と持続可能な開発に向けた取り組みを支援していきたい旨述べました。



デルガド校長挨拶



山中参事官挨拶



アラゴン国務大臣挨拶



ウルビナ理事長謝辞



リボンカット



完成した校舎全景